様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｈ０３７５２

研究課題名（和文）慢性疼痛難治例の症例対照研究：中枢性感作に関する愛着・認知・情動とバイオマーカー

研究課題名（英文）A case control study on intractable chronic pain: The attachment, cognition, emotion, and biomarkers on central sensitization

研究代表者
細井　昌子（Hosoi, Masako）

九州大学・大学病院・講師

研究者番号：８０３８０４００

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　18,960,000円

研究成果の概要（和文）：慢性疼痛難治例では、現在のストレス状態に加えて、幼少期からの逆境により中枢性感作が生じている可能性がある。家族機能不全などの逆境から悪夢が生じ、脳機能や脳容積に変化が起こる仮説をもとに、久山町における一般住民を対象とした心身医学的疫学研究（1106人~2575人）および九州大学病院心療内科の慢性疼痛難治例（250人）を対象とした研究を行った。その結果、日本における地域一般住民において、家族機能の低下に伴い慢性疼痛の有症率と重症度は有意に上昇し、痛み関連脳領域の容積低下と慢性腰痛の関連があった。また、悪夢の苦痛度は中枢性感作関連症状や不安と関連しており、局所痛よりも広範囲痛群でより高度であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　慢性疼痛と家族機能については小児で注目されてきたが、40歳以上の成人における家族機能の一般住民の慢性疼痛への影響は不明であった。本研究では、50年以上の歴史のある久山町疫学研究で、厳密に情報を収集し、多変量調整をしたうえでも家族機能不全が慢性疼痛の有症率や重症度を有意に上昇させていたことが判明した。また、同じ集団で1000人以上のMRIを撮影し、慢性腰痛が高齢者の脳萎縮と関連し、慢性疼痛の脳への悪影響が明らかとなり、その結果は国際疼痛学会誌PAINで注目され、学術的にインパクトをもたらした。慢性疼痛と悪夢の関連とともに、慢性疼痛の心理教育に有用な情報として社会的意義が高い。

研究成果の概要（英文）：In chronic pain refractory cases, central sensitization may be caused by adversity from childhood in addition to current stress conditions. Based on the hypothesis that nightmares may result from adversity such as family dysfunction, causing changes in brain function and brain volume, we conducted a psychosomatic epidemiological study of general residents in the town of Hisayama (1106~2575 subjects) and chronic pain refractory cases (250 subjects) at the Department of Psychosomatic Medicine, Kyushu University Hospital. The results showed that the prevalence and severity of chronic pain increased significantly in the general population of the region in Japan as family function declined, and there was an association between decreased volume of pain-related brain regions and chronic low back pain. Distress levels of nightmares were also associated with central sensitization-related symptoms and anxiety, and were more severe in the widespread pain group than in the local pain group.

研究分野：心身医学・神経科学

キーワード：中枢性感作　慢性疼痛　家族機能　悪夢　脳容積　腰痛　有症率　愛着

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

慢性疼痛の難治例は、既知の器質的疾患を鑑別した後にも診断不能な病態として、ICD では持続性身体表現性疼痛障害という病名で表記されることが多く、米国精神医学会の精神疾患の診断基準である DSM-5 では身体症状症という病名で、精神疾患として扱われている。実際、多数の医療機関を経て心療内科や精神神経科に紹介される段階では、医療への不信感も多く、さまざまな心理社会的因子が観察されることが多い。なかでも、幼少期から現在までに至る家族機能不全が共通して認められる心理社会的因子であるが、一般住民において、家族機能が慢性疼痛の有症率に影響を与えているかどうかについては注目されてこなかった。

慢性疼痛難治例では、現在のストレス状態に加えて、幼少期からの逆境により中枢性感作が生じている可能性がある。家族機能不全などの逆境から悪夢が生じ、脳機能や脳容積に変化が起こる仮説をもとに、本研究を設定した。

２．研究の目的

本研究課題の目的は、上記のように、慢性疼痛難治例の中枢性感作に関与する愛着・認知・情動の関連を探索的に研究することであった。慢性疼痛難治例の中枢性感作に関与する愛着・認知・情動について、段階を踏んで検討するために、１）日本の一般住民で、家族機能が慢性の痛みと関連があるのかどうか、２）日本の一般住民では慢性疼痛を有する高齢者で、脳容積に異常があるのかどうか、３）慢性疼痛患者難治例において、悪夢と中枢性感作関連症状は関連があるのかどうか、についての情報を収集し、その関連について明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

1） 日本の一般住民における家族機能と慢性疼痛の関連に関する研究

対象： 2017-2018 年に福岡県久山町の住民健診を受診した 40 歳以上の住民 3,492 名のうち、質問紙調査を受けた 2,575 名（男性 1,135 名、女性 1,440 名）

研究デザイン：横断研究

調査方法：質問紙調査、問診、身体計測、血圧測定、血液検査

曝露因子：家族機能 Short Version of the General Functioning Subscale of the McMaster Family Assessment Device（GF6+）を使用

先行研究(Miller IW ら、J Marital Fam Ther、1985)のカットオフ値に準じて

家族機能を以下の 3 群に分類

≦1.8 点 ：正常群

＞1.8 点、≦2.0 点 ：境界群

＞2.0 点 ：不全群アウトカム ：慢性疼痛（罹病期間 3 ヶ月以上）の有無

【重症度別の評価指標】

疼痛強度：Visual analogue scale（VAS）にて評価

軽度（VAS＜31mm）、中高強度（VAS≧31mm）に分類 1)

罹病期間：中央値で分類（36 ヶ月未満／36 ヶ月以上）

統計解析 ：ロジスティック回帰分析

調整因子：年齢、性別、教育年数、就労状況、主観的経済状況、 Body mass index（BMI）、高血圧、糖尿病、心血管病または癌の既往歴、喫煙習慣、飲酒習慣、運動習慣、近所づきあいの頻度、同居していない親族または友人との交流頻度、独居、婚姻状況、配偶者と同居、親と同居、子どもと同居

２）日本の一般住民における慢性疼痛を有する高齢者の脳容積研究

デザイン: 横断研究

対象者: 2017～2018 年に福岡県久山町の住民健診を受診し、頭部 MRI 検査を受けた対象者のうち、脳卒中および認知症の既往のない 65 歳以上の住民 1,106 名

暴露因子: 慢性疼痛の有無、主要慢性疼痛部位により 3 群に分類

①慢性疼痛なし　②腰部以外の慢性疼痛　③慢性腰痛

質問紙

・慢性疼痛：3 か月以上前からある痛み

・主要慢性疼痛部位：慢性疼痛で最も困っている体の部位

・疼痛強度：VAS スケール（0 ㎜～100 ㎜）

頭部 MRI 検査: フィリップス社 Intera Pulsar（磁場強度：1.5 テスラ）

3 次元収集 T1 強調画像

画像解析: FreeSurfer ver.6.0.0

頭蓋内容積および領域別脳容積を算出

アウトカム: 頭蓋内容積に占める各領域の脳容積割合（%）

＝（［左＋右］領域別脳容積／頭蓋内容積)×100

脳関心領域は先行研究に基づいて設定した。

統計解析: 共分散分析

調整因子:年齢、性別、教育年数、婚姻状況、主観的経済状況、高血圧、糖尿病、血清総コレステロール値、BMI、現在の喫煙習慣、現在の飲酒習慣、 定期的な運動習慣、MRI 上の脳血管病変、ADL 障害

3）九州大学病院心療内科外来における慢性疼痛患者難治例と悪夢症状との関連

対象：2019 年 10 月～2021 年 6 月、九州大学病院心療内科外来を初診した慢性疼痛患者 250 名 (平均年齢 47.9±17.8 歳、女性 172 名)

評価項目：初診時に以下の項目を自記式質問紙により測定

・悪夢の苦痛度　(Nightmare distress questionnaire : NDQ)

・痛みの強さ　(Visual Analog Scale: VAS)

・生活障害　(Pain Disability Assessment Scale：PDAS)

・不安/抑うつ　(Hospital Anxiety and Depression scale : HADS)

・中枢性感作関連症状　(Central Sensitization Inventory : CSI)

・睡眠障害　(Pittsburgh Sleep Quality Index :PSQI)

解析：各指標の相関分析、NDQ を目的変数とした重回帰分析、

広範囲群と局所痛群(CSI≧30)、局所痛群(CSI<30)における NDQ 平均値の分散分析

４．研究成果

1） 日本の一般住民における家族機能と慢性疼痛の関連に関する研究

Table 1

家族機能レベル別にみた慢性疼痛を有するオッズ比

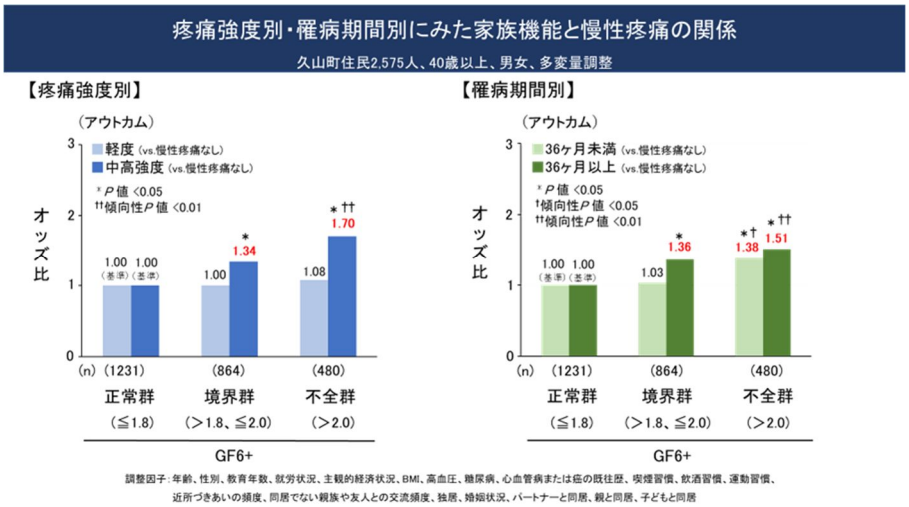
久山町住民2,575人、40歳以上、男女、多変量調整

GF6+	有症者数/対象者数	性・年齢調整 オッズ比 (95%信頼区間)	性・年齢調整 P 値	多変量調整* オッズ比 (95%信頼区間)	多変量調整* P 値
正常群（≦1.8）	564/1231	1.00（基準）		1.00（基準）	
境界群（＞1.8、≦2.0）	425/864	1.20 (1.01–1.44)	0.04	1.20 (1.01–1.44)	0.04
不全群（＞2.0）	267/480	1.55 (1.25–1.92)	＜0.01	1.45 (1.16–1.82)	＜0.01
傾向性 P 値		＜0.01		＜0.01	

GF6+: the General Functioning Subscale

*調整因子：年齢、性別、教育年数、就労状況、主観的経済状況、BMI、高血圧、糖尿病、心血管病または癌の既往歴、喫煙習慣、飲酒習慣、運動習慣、近所づきあいの頻度、同居でない親族や友人との交流頻度、独居、婚姻状況、パートナーと同居、親と同居、子どもと同居

Fig 1



【結果】家族機能各群の頻度は、正常群 48%、境界群 33%、不全群 19%であった。慢性疼痛の有症率は 49%であった。慢性疼痛を有するオッズ比（95%信頼区間）（多変量調整後）は、正常群に比べ、境界群で 1.20（1.01-1.44）、不全群で 1.45（1.16-1.82）と有意に上昇し(Table 1)、重症度別にみると、中高強度痛は、境界群で 1.34（1.09-1.65）、不全群で 1.70（1.34-2.20）、罹病期間 36 ヶ月以上は、境界群で 1.36（1.10-1.69）、不全群で 1.51（1.15-1.95）と境界群のレベルから有意に上昇した(Fig1)。

【結論】地域一般住民において、家族機能の低下に伴い慢性疼痛の有症率と重症度は有意に上昇した。慢性疼痛の対策に家族機能を考慮することの重要性が示唆された。

2） 日本の一般住民における慢性疼痛を有する高齢者の脳容積研究

Fig 1

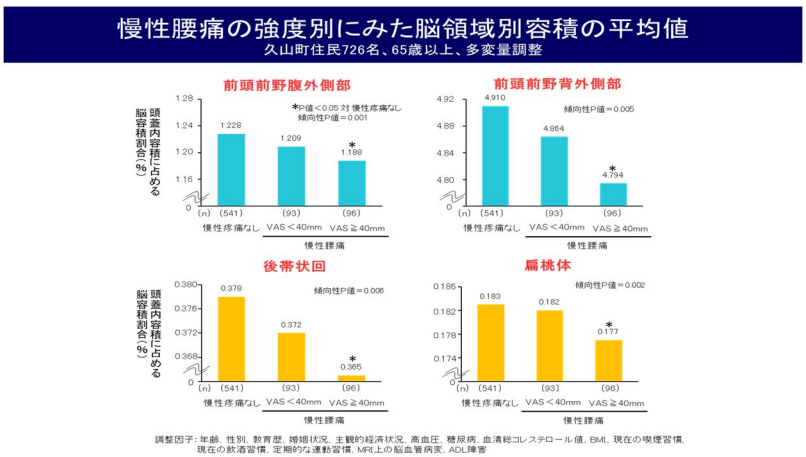
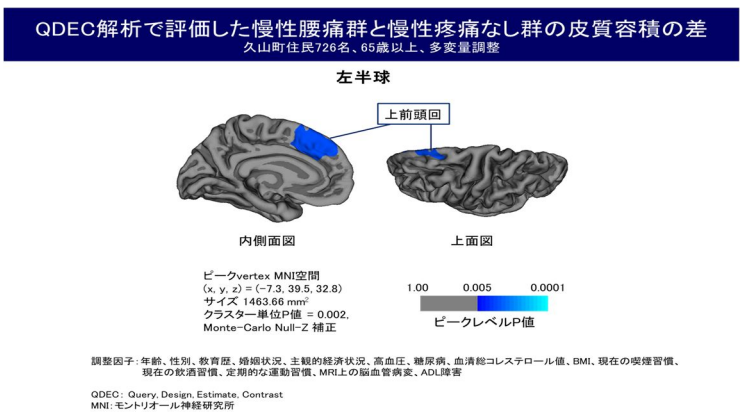


Fig 2



【結果】前頭前野腹外側部および背外側部、後帯状回、扁桃体の多変量調整後の脳容積割合は、慢性疼痛なし群と比べて慢性腰痛群で有意に小さかった（全 P ＜ 0.05）。一方、慢性疼痛なし群と腰部以外の慢性疼痛群の間には、これらの痛み関連脳領域の脳容積割合に有意差は認めなかった。さらに、Query, Design, Estimate, Contrast インターフェイスを用いて、特定の関心領域を設定せずに皮質容積を網羅的に解析したところ、慢性疼痛なし群に比べて慢性腰痛群で、左上前頭回に有意に脳容積が低下したクラスターが同定された(Fig 2)。

【結論】日本における地域高齢住民において、痛み関連脳領域の容積低下と慢性腰痛の関連があった。

3） 九州大学病院心療内科外来における慢性疼痛患者難治例と悪夢症状との関連

Table 1 相関分析

（N=250）

	悪夢の苦痛度	痛みの強さ	生活障害	不安	抑うつ	睡眠障害	中枢性感作
悪夢の苦痛度(NDQ)	**-**	**0.184****	**0.212****	**0.392****	**0.272****	**0.282****	**0.447****
痛みの強さ(VAS)		-	0.540**	0.358**	0.376**	0.392**	0.458**
生活障害(PDAS)			-	0.328**	0.517**	0.382**	0.559**
不安(HADS-A)				-	0.667**	0.429**	0.589**
抑うつ(HADS-D)					-	0.502**	0.569**
睡眠障害(PSQI)						-	0.602**
中枢性感作(CSI)							-

*=p<.05　　**=p<.01

Table 2　重回帰分析

目的変数：悪夢の苦痛度(NDQ)　　(N=250)

説明変数	β	p値
年齢	-0.073	0.233
性別	0.050	0.399
痛みの強さ（VAS）	-0.340	0.734
生活障害（PDAS）	0.340	0.947
不安（HADS-A）	3.126	0.002
抑うつ（HADS-D）	-0.991	0.323
睡眠障害(PSQI)	0.398	0.691
中枢性感作（CSI）	3.393	0.001

【結果】悪夢の苦痛度と重症度関連の質問紙の重回帰分析では中枢性感作と不安のみが関連していた。また、中枢性感作スコアが低値の局所痛群より、中枢性感作がより進行したと考えられる中枢性感作スコアが高値の局所痛群や広範囲痛群では、悪夢の苦痛度が高かった。

【考察】悪夢に悩まされる患者は臨床的に慢性ストレス状況にあることが多く、中枢性感作や不安なども含め相互的に悪影響を与え、慢性疼痛の発症や難治化に影響している可能性がある。また、悪夢には幼少期の逆境体験を想起させる内容も多く、生育歴が慢性疼痛の難治化に関連する要因の一つである可能性があるが、因果関係については今後とも検討が必要である。

【結論】悪夢の苦痛度は中枢性感作関連症状や不安と関連しており、局所痛よりも広範囲痛群でより高度であった

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　6件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Mao Shibata 、Toshiharu Ninomiya 、Kozo Anno、Hiroshi Kawata 、Rie Iwaki 、Ryoko Sawamoto 、Chiharu Kubo 、 Yutaka Kiyohara 、Nobuyuki Sudo 、Masako Hosoi	４．巻 99
２．論文標題 Parenting style during childhood is associated with the development of chronic pain and a patient's need for psychosomatic treatment in adulthood	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Medicine	６．最初と最後の頁 e21230～e21230
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1097/MD.0000000000021230	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Mao Shibata 、Tomoyuki Ohara 、Masako Hosoi 、 Jun Hata 、Daigo Yoshida 、Naoki Hirabayashi 、Yukiko Morisaki 、 Taro Nakazawa 、Akane Mihara 、Takuya Nagata 、 Emi Oishi 、Kozo Anno 、Nobuyuki Sudo、 Toshiharu Ninomiya	４．巻 76
２．論文標題 Emotional Loneliness Is Associated With a Risk of Dementia in a General Japanese Older Population: The Hisayama Study	５．発行年 2020年
３．雑誌名 The Journals of Gerontology: Series B	６．最初と最後の頁 1756～1766
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/geronb/gbaa196	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Hidetoshi Tozaki-Saitoh 、 Izumi Sasaki 、 Tomohiro Yamashita 、Masako Hosoi 、 Takahiro A.Kato 、Makoto Tsuda	４．巻 143
２．論文標題 Involvement of exchange protein directly activated by cAMP and tumor progression locus 2 in IL-1β production in microglial cells following activation of β-adrenergic receptors	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Pharmacological Sciences	６．最初と最後の頁 133～140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jphs.2020.03.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 細井昌子	４．巻 46(3)
２．論文標題 慢性疼痛とアサーション ― 自尊心の回復と失感情症への対応の重要性 ―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 精神療法	６．最初と最後の頁 336-341
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 細井昌子	4．巻 41(6)
2．論文標題 慢性疼痛における心理社会的要因子と気象関連痛：自律神経機能低下をきたす愛着・認知・情動・行動障害の悪循環	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ペインクリニック	6．最初と最後の頁 759-766
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平田幸一、鈴木圭輔、春山康夫、小橋 元、佐伯吉規、細井昌子、福土 審、柳原万理子、 井上雄一、西原真理、西須大徳、森岡 周、西上智彦、團野大介、竹島多賀夫、端詰勝敬、 橋本和明	4．巻 37（2）
2．論文標題 種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割と解明をそれのよる患者ケアの向上	5．発行年 2020年
3．雑誌名 神経治療	6．最初と最後の頁 166-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 濱上陽平、木村慎二、大鶴直史、安野広三、細井昌子	4．巻 242
2．論文標題 運動療法と認知行動療法の併用効果―いきいきリハビリノートを用いた認知行動療法に基づく運動促進法―（特集/運動器慢性疼痛マネージメントにおけるリハビリテーション診療の意義と重要性）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Medical Rehabilitation	6．最初と最後の頁 45-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中佑、安野広三、早木千絵、西原智恵、柴田舞欧、岩城理恵、須藤信行、細井昌子	4．巻 38(1)
2．論文標題 慢性疼痛患者への心身医学的介入の効果：初診時における「過去の医療不信」が痛みの破局化の改善に関連する	5．発行年 2019年
3．雑誌名 慢性疼痛	6．最初と最後の頁 104-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 深町享子、一之瀬喜美子、太田衣美、菊武恵子、安野広三、富岡光直、須藤信行、細井昌子	4．巻 38(1)
2．論文標題 看護師の交流分析に関する意識と慢性疼痛患者に対するストレス認知との関連	5．発行年 2019年
3．雑誌名 慢性疼痛	6．最初と最後の頁 134-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 富岡光直、細井昌子、麻生千恵、須藤信行	4．巻 59(8)
2．論文標題 自律神経訓練法を患者の病態理解に役立てる	5．発行年 2019年
3．雑誌名 心身医学	6．最初と最後の頁 742-747
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 細井昌子	4．巻 77(1)
2．論文標題 慢性疼痛に対する心理的アプローチ：嫌悪的現象との付き合い方を習得するレッスン	5．発行年 2020年
3．雑誌名 医学と薬学	6．最初と最後の頁 47-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中佑,安野広三,細井昌子	4．巻 97(2)
2．論文標題 慢性疼痛に対する心理的アプローチ：Bio-psycho-social modelから	5．発行年 2020年
3．雑誌名 臨牀と研究	6．最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 細井昌子,伊津野巧, 茂貫尚子,末松孝文,安野広三	4．巻 20(2)
2．論文標題 「こころ」の痛みと「からだ」の痛みー慢性疼痛臨床における心身相関	5．発行年 2020年
3．雑誌名 臨床心理学	6．最初と最後の頁 150-154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 H Tozaki-Saitoh , I Sasaki , T Yamashita , M Hosoi ,TA Kato , M Tsuda	4．巻 pii: S1347-8613(20)
2．論文標題 Involvement of exchange protein directly activated by cAMP and tumor progression locus 2 in IL-1β production in microglial cells following activation of β-adrenergic receptors.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 J Pharmacol Sci.	6．最初と最後の頁 30031-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jphs.2020.03.004.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計32件（うち招待講演　10件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 Masako Hosoi
2．発表標題 Fibromyalgia and microglial TNF-a : Translatianal research using human blood induced microglia-like cells in Large-Scale Research Consortia inPain Session
3．学会等名 IASP Virtual Series on Pain & Expo : Innovation in Rerearch and Education（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2020年

1．発表者名 田中 佑、安野広三、早木千絵、西原智恵、柴田真欧、岩城理恵、須藤信行、細井昌子
2．発表標題 愛着スタイルと心療内科の外来治療に対する反応性：線維筋痛症以外の慢性疼痛患者における検討
3．学会等名 第49回日本慢性疼痛学会
4．発表年 2020年

１．発表者名 安野広三、細井昌子、田中 佑、早木千絵、西原智恵、柴田舞欧、岩城理恵、須藤信行
２．発表標題 慢性疼痛に対する心療内科外来治療への失感情症の影響：線筋痛症とその他の慢性疼痛の比較
３．学会等名 第49回日本慢性疼痛学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 細井昌子、安野広三
２．発表標題 認知行動療法に基づく第３世代「いきいきリハビリノート」による運動促進法講習会：第３世代「いきいきリハビリノート」心身医学的観点からの使用方法
３．学会等名 第13回日本運動器疼痛学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 齊藤貴文、柴田舞欧、平林直樹、森崎悠紀子、安野広三、須藤信行、細井昌子
２．発表標題 地域一般住民における家族機能と慢性疼痛の関連： 久山町研究
３．学会等名 第13回日本運動器疼痛学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 柴田舞欧、二宮利治、齊藤貴文、平林直樹、森崎悠紀子、安野広三、須藤信行、細井昌子
２．発表標題 地域一般住民における慢性仏痛の定義と有症率の関連：久山町研究
３．学会等名 第13回日本運動器疼痛学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 細井昌子
２．発表標題 慢性疼痛と女性統合医療：予防としての安全基地の重要性
３．学会等名 第24回日本統合医療学会学術大会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 細井昌子
２．発表標題 慢性疼痛における社会的敗北ストレスと愛着障害： 難治例から心の問題を考える
３．学会等名 第42回日本疼痛学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊津野巧、細井昌子、安野広三、足立友理、富岡光直、茂貫尚子、稲富真美子、田中 佑、須藤信行
２．発表標題 線維筋痛症難治例に対してマインドフルネスを有効化するための工夫－指示の重要性－
３．学会等名 第60回日本心身医学学会九州地方会
４．発表年 2021年

１．発表者名 田中 佑、安野広三、細井昌子、村上匡史、柴田舞欧、須藤信行
２．発表標題 慢性疼痛患者における完全主義特性と中枢性感作との関連
３．学会等名 第60回日本心身医学学会九州地方会
４．発表年 2021年

１．発表者名 永江悠子、細井昌子、富岡光直、須藤信行
２．発表標題 描画を用いた日記が治療に有効であった線維筋痛症 の一例
３．学会等名 第60回日本心身医学学会九州地方会
４．発表年 2021年

１．発表者名 村上匡史、細井昌子、安野広三、田中 佑、足立有理、茂貫尚子、稲富真美子、須藤信行
２．発表標題 家庭での安心感の不足に対して家族への介入が有効であった慢性疼痛（両手指）の一例
３．学会等名 第60回日本心身医学学会九州地方会
４．発表年 2021年

１．発表者名 細井昌子
２．発表標題 心身医療からリハビリ職に期待すること：心療リハビリのすすめ
３．学会等名 第１回九州地区リハビリ専門職 痛みネットワーク研修会 WEB
４．発表年 2021年

１．発表者名 村上匡史、安野広三、田中 佑、足立有理、茂貫尚子、稲富真美子、須藤信行、細井昌子
２．発表標題 過剰適応傾向が強い慢性疼痛（両手指）患者に対して段階的心身医学的治療が有効であった一例
３．学会等名 第50回日本慢性疼痛学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 坂本英治、津田緩子、安野広三、前田愛子、須藤信行、細井昌子
２．発表標題 家族との葛藤が影響していた口腔顔面痛に対して歯科と心療内科が奏功した一例
３．学会等名 第50回日本慢性疼痛学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 心療内科受診初期における対応の難しさ
２．発表標題 安野広三、村上匡史、田中　　佑、細井昌子
３．学会等名 第50回日本慢性疼痛学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 細井昌子、田中 佑、安野広三、村上匡史、柴田舞欧、須藤信行
２．発表標題 完璧主義特性と中枢性感作関連症状との関連：慢性疼痛難治例における検討
３．学会等名 第50回日本慢性疼痛学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 齊藤貴文、柴田舞欧、安野広三、須藤信行、細井昌子
２．発表標題 地域一般において家族機能は慢性疼痛の有症率およ び重症度に関連する：久山町研究
３．学会等名 第50回日本慢性疼痛学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 細井昌子
２．発表標題 慢性疼痛のナラティブとエビデンス：ミクログリア異常の観点から
３．学会等名 第30回日本医学会総会2019中部（招待講演）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 細井昌子
２．発表標題 慢性疼痛における心身相関：薬物療法を阻害するメカニズムの解明
３．学会等名 第41回日本疼痛学会（招待講演）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 細井昌子、柴田舞欧、安野広三
２．発表標題 慢性疼痛の治療対象としての情動調整障害：アレキシサイミア
３．学会等名 第41回日本生物学的精神医学会（招待講演）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 安野広三、田中佑、細井昌子
２．発表標題 慢性疼痛患者における線維筋痛症の割合：愛着スタイル別の比較
３．学会等名 日本線維筋痛症学会第11回学術集会（招待講演）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 細井 昌子、安野 広三、村橋 明子、田中　佑、橋本 英信、須藤信行
２．発表標題 線維筋痛症の生育歴における心理社会的ストレスと愛着障害
３．学会等名 第35回日本ストレス学会（招待講演）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 細井昌子、橋本英信、安野広三、早木千絵、西原智恵、田中　佑、須藤信行
２．発表標題 失体感症と慢性疼痛臨床アウトカムとの関連
３．学会等名 第2回日本心身医学関連学会合同集会
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 安野広三、細井昌子、田中 佑、早木千絵 、西原智恵、柴田舞欧、岩城理恵、須藤信行
２．発表標題 慢性疼痛に対する心療内科外来治療への失 感情症の影響：線維筋痛症とその他の慢性 疼痛の比較
３．学会等名 第2回日本心身医学関連学会 合同集会
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 足立友理、細井昌子、安野広三、平林直樹、松下智子、富岡光直、須藤信行
２．発表標題 母親への強い怒りの処理に難渋し、非言語的アプローチが有用であった線維筋痛症の一症例
３．学会等名 第2回日本心身医学関連学会合同集会
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 田中　佑、細井昌子、安野広三、早木千絵、西原智恵、柴田舞欧、岩城理恵、須藤信行
２．発表標題 慢性疼痛の心療内科外来治療への愛着スタイルの影響
３．学会等名 第2回日本心身医学関連学会合同集会
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 義田俊之、細井昌子、安野広三、河田　浩 、早木千絵、岩城理恵、西原智恵、柴田舞欧、 須藤信行
２．発表標題 慢性疼痛患者における医療不信 と破局化および不快情動との関連
３．学会等名 第2回 日本心身医学関連学会合同集会
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 細井昌子
２．発表標題 認知・情動・行動へのアプローチ：マインドフルウォーキングを取り入れた第３世代「いきいきリハビリノート」の使い方
３．学会等名 第12回 日本運動器疼痛学会　（招待講演）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 細井昌子
２．発表標題 こころと慢性疼痛：次世代の幸福のために今できること
３．学会等名 第23回日本統合医療学会（招待講演）
４．発表年 2019年～2020年

１．発表者名 柴田舞欧、細井昌子、平林直樹、齊藤貴文、森崎悠紀子、安野広三、須藤信行、二宮利治
２．発表標題 日本人地域一般住民における慢性疼痛の有症率と定義の検討：久山町研究
３．学会等名 第59回日本心身医学会九州地方会
４．発表年 2020年

１．発表者名 大杉康司、細井 昌子、足立友里、富岡 光直、田中 佑、安野広三、須藤信行
２．発表標題 受動性への介入が奏功した脳脊髄液減少症治療後の慢性頭痛に対する段階的心身医学的治療
３．学会等名 第59回日本心身医学会九州地方会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計3件

１．著者名 牛田 享宏、福井 聖、川﨑 元敬　（細井昌子）	４．発行年 2021年
２．出版社 メジカルビュー社	５．総ページ数 4
３．書名 痛みにチームでアプローチ！　慢性疼痛ケースカンファレンス（慢性疼痛をもたらす疾患：原因と病態身体症状：疼痛が主症状のもの）	

１．著者名 牛田 享宏、福井 聖、川﨑 元敬　（細井昌子）	４．発行年 2020年
２．出版社 メジカルビュー社	５．総ページ数 4
３．書名 痛みにチームでアプローチ！　慢性疼痛ケースカンファレンス　（心理療法：②認知行動療法・マインドフルネス・ACT）	

１．著者名 V Tesio , KS Goerlich ,M Hosoi , L Castelli	４．発行年 2019年
２．出版社 Front Psychol.	５．総ページ数 3
３．書名 Editorial: Alexithymia- State of the Art and Controversies. Clinical and Neuroscientific Evidence.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	坂本　英治 (Sakamoto Eiji) (00295859)	九州大学・大学病院・講師 (17102)	
研究分担者	柴田　舞欧 (Shibata Mao) (20734982)	九州大学・医学研究院・助教 (17102)	
研究分担者	二宮　利治 (Ninomiya Toshiharu) (30571765)	九州大学・医学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	安野　広三 (Anno Kozo) (30747994)	九州大学・大学病院・助教 (17102)	
研究分担者	外園　栄作 (Hokazono Eisaku) (60404042)	九州大学・医学研究院・講師 (17102)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関